

2012. 7. 7



7月7日にちなんで 7の付く名曲を聴く



プログラム

今日は7月7日七夕です。そこで今回のCDコンサートでは7月7日にちなんで、7の付く名曲を選んでお聴きいただくことにしました。

ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第7番は当時のオーストリア大使ラズモフスキー伯爵の委嘱によって作曲された3つの四重奏曲の最初の一曲で、堂々たるスケールと雄弁さを持った名作です。“魔笛”の主題による7つの変奏曲は、モーツァルトの歌劇「魔笛」第一幕の“恋を知るほどの殿方には”を主題とし、チェロの特性を生かした美しさに変奏の妙に魅了される作品です。プロコフィエフの交響曲第7番は、自らが“わが青春の未来への喜びという思想によって生まれた曲”と語り“青春交響曲”と呼んでいたことから副題が付けられています。親しみやすいメロディと暖かな情感に溢れた曲想で親しまれている名曲です。ショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲第1番は、第1楽章の沈鬱な情感、第3楽章の長大なカデンツァ、第2、第4楽章のスリリングなヴァイオリンとオーケストラの掛け合い等聴きどころ満載の傑作。ドヴォルザークの交響曲第7番は、民族色を織りまぜながら、男性的な力感と劇的迫力を持った名曲です。

今日は7にこだわった、やや渋めの名曲の数々でお楽しみください。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):

弦楽四重奏曲第7番ハ長調op.59-1 “ラズモフスキー第1番” ~ 全4楽章抜粋

ジュリアード弦楽四重奏団

(1997.6.3 カサルスホールでのLive)

“魔笛”の主題による7つの変奏曲変ホ長調

ジャクリーヌ・デュ・プレ (チェロ) / ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

(1970. エディンバラ音楽祭でのLive EMI盤)

セルゲイ・プロコフィエフ (1891~1953):

交響曲第7番嬰ハ短調op.131 “青春” ~ 全4楽章抜粋

広上淳一指揮読売日本交響楽団

(2011.4.7 東京オペラシティ・コンサートホールでのLive)

*** 休憩 ***

ドミトリ・ショスタコーヴィチ (1906~1975):

ヴァイオリン協奏曲第1番イ短調op.77 ~ 全4楽章抜粋

庄司紗矢香 (ヴァイオリン) / シャルル・デュトア指揮NHK交響楽団

(2002.9.18 サントリーホールでのLive)

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904):

交響曲第7番ニ短調op.70 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第3楽章から、第4楽章

ヤン・クレンツ指揮サールブリュッケン放送交響楽団

(1994.3.20 コンGRESハレ大ホールでのLive)